

令和6年度 第1回学校運営協議会

1. 学校長挨拶

今年度は二個学年のみであり、教員数も減っている。教頭が1人になり、保健室も2名体制から1名体制になった。教員が減っても教育の質を落とすことのないよう尽力していく。

2. 委員委嘱及び自己紹介

- A 大学教授
- B 障がい者福祉サービスの施設長
- C 松原市内中学校校長
- D 松原市内小学校校長（欠席）
- E 中小企業家同友会南東部ブロックより
- F PTA会長（欠席）

3. 会長、副会長選出

会長：A 大学教授

副会長：B 障害者福祉サービスの施設長 が選出された

4. 学校経営計画、学校評価について

- ・中期目標は昨年度に了承済み
勉強がわかり学んだことを活用できる力の育成
人とつながり自分を律する力の育成
目標の中でもこの2点を重視している。
- ・観点別評価について
教員の授業力を伸ばすことも大事だが、生徒がどれだけ学べるかという学習力を伸ばしていくことをより重視していく。生徒が自ら学ぶ力を育成することが大切である。
- ・黒板について
電子黒板になり、プロジェクターが備え付けられている。字も見やすい。
- ・人とつながり自らを律する力の育成
生徒たちが互いに学び会える力を育成、すべての生徒が学びやすいように個別の支援計画の作成、活用をしていく。人権教育を特別なものにするのではなく、どんなことでも人権的な観点をベースにすることが大切。

<この件についての質問・意見>

委員：電子黒板の使い方はどうか

教員：2画面で映し出すなど工夫をすれば良い使い方ができる。色も見やすくなっている。

委員：タブレット等はよく使っているか

教員：授業によって使ったり使わなかったりがある。持って帰らせることはしていない。

5. 各学年・分掌の方針

<3年学年主任>

- ・在籍者数91名。教員が一体となって社会力を育成していく。
- ・精神面で難しさを抱えている生徒に対しても個別対応を組織的に連携しておこなっていく。
- ・指示通りに動くだけでなく生徒自ら行動できるように促していく。
- ・それぞれの生徒が自分の状況にあった進路を選べるように指導していく。

<2年学年主任>

- ・昨年度は懲戒件数も多かったが、今年度は比較的落ち着いている。
そのぶん、様々な課題を持った生徒により多くの関わりを持つようにしている。
- ・修学旅行という学校の一大イベントを成功させる。生徒も沖縄を楽しみにしている。

<学年についての質問・意見>

委員：教員数が減ったとあるがどれぐらいの教員数か。

教員：教員数は現在30人程度。昨年度より10人ほど減った。

委員：教員の連携はどうか、教員の負担は増えたか

教員：職員室がこじんまりとしたこともあって、連携がしやすくなっている部分もある。

教員の一人ひとりの負担は多くなっているかもしれない

委員：生徒の指導について（社員の指導と同じ）、最初から答えを言うのではなく、考えさせてさせてみることは大切である。難しいのはその後のフォローの仕方であるが、頭ごなしに言うのではなく褒めることが大切。1年生から2年生への変化は大きいので難しさはあるはず。会社でも社員に対して立場上の関係ではなく人と人との関係で話すことを大事にしている。立場上どうしても上になってしまう教員であるが、教員としてではなく人間として生徒と向き合うことが大切。

委員：個別対応について、現任校で一学年に3～4名の個別対応が出てくると回らなくなることもある。中学時で個別対応をしても、高校でなじめたり、そうでない生徒もいる。高校ではどのような個別対応をしているのか。家庭訪問までしていただいていると聞いている。

教員：SC、SSWとも連携をしている。教室に入るのが難しい生徒に対して1人1台端末を活用して別室でライブ対応をするなどの個別対応をしている。

<教務（欠席）>

- ・校務処理システムが変更になるが、まだどう変わるかわからないので、今後対応が必要になってくる。1月から変わる予定。

<進路指導部>

- ・3年生に講座やガイダンスを実施している。
- ・2年生は進路ガイダンスツアーで専門学校や大学を見学した。
- ・3年生は学年半分が就職希望。面接指導もすでに始まっている。進学希望者に対して夏期講習等を進めていく。

<生徒会>

- ・学校行事について

体育大会は2学年のみであったが、良い雰囲気です。2年、3年が一体となっていた。文化祭についても今までと同じように盛り上げることが難しい。キッチンカーを呼ぶことも検討している。

- ・部活動について

新入生が入って来ないので、部活動紹介はしていない。今まであまり活動していなかった部が活性化していることは嬉しいことである。

- ・生徒会執行部

今まで以上に連携し、執行部の生徒が活躍できるようにする。

<生徒指導部>

- ・方針

マナー、モラル、ルールを守れるように学校全体で指導していく。

- ・懲戒件数

昨年度は70件程度。今年度は1年生がいなくても影響しているが、落ち着いている。問題行動に対処するだけでなく未然に防ぐような声掛けをしていくことも大切にしている。

- ・身だしなみ

身だしなみ強化週間を設定している。その期間はきちんとするが、それ以外の期間ができていないことが課題である。

<保健部>

- ・保健室の教員が2名から1名に減ったため、保健室の活用方法を検討していかなければならない。

- ・検診について、さまざまな配慮が必要になってきている。どのような配慮が必要か確認しながら対応していく。

・保健部からではないが、松原市の地域食堂との関わりを持たせてもらっている。高校生がボランティアとして参加して、ご飯もいただいた。今後も継続しておこなっていきたい。

<分掌についての質問・意見>

委員：防災について、災害が起きたときに若い力は非常に力になるのではないか。自分自身の避難だけでなく外に目を向けるようにすることも大切。

委員：一次避難所について、大学でも避難所として受け入れたが、大学は一時避難所ではなく基本的には小学校中学校が一次避難所になっている。洪水は対象外。確認しておいた方が良い。地域の避難訓練に学生が参加していることもある。一人で住んでいる高齢者の家には黄色のタオルをかけて、何かあったときには協力できるようになどの対応をしていた。防災士を呼ぶこともできる。

委員：地域の人を学校に呼んで一緒に訓練をおこなった。カードゲームのようなものを一緒にやったりした。

委員：教員が減ったことを生徒はどう捉えているか

教員：生徒はそこまで現状ではマイナスに捉えていない。ただ、来年度はどうなるかわからない。

委員：地域から学校がなくなることについて何か大変なことはあるか

教員：さみしいという声をいただいているが、「大変なこと」は今は聞いていない。

委員：施設でも地域食堂などいろいろな催しをしているので関わらせていただきたい。

委員：男子トイレ、女子トイレを使えない生徒にどう対応しているか。

教員：多目的トイレを使っていたこともある。しかし、生徒によっては多目的トイレを使うことが嫌という生徒もいる。

委員：人権的な観点でも、性的マイノリティへの理解というのは重要ではないか。

6. まとめ

これからまた生徒、教員が減っていく。今日出た意見の中で、地域との連携、外部の人との関わりは今後の取組の一つとして良いのではないか。地域、小学校、中学校との交流が進んで盛んになってほしい。

提出物を出させることは大学生もできない。教員育成指標の0期に書類をきちんと出せることと書かれている。高校生ではちょっと遅れてでもとにかく出させることを重点的にやることも大切。大人でも期日を守らない人もいる。できたことを褒めることも大切。

7. その他

次回以降の予定の確認